



東邦大学 佐倉だより



vol. **53**
2021.10.1

基本理念

- 医療の目的 質の高い医療を安全に提供する病院
- 病診(病)連携 地域に貢献する病院
- 教職員のあり方 人間愛を共有する病院
- 職場環境 楽しく明るくチャレンジする病院
- 生涯教育 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

東邦大学医療センター佐倉病院

発行：広報委員会・東邦佐倉会事務局

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1

TEL 043-462-8811 (代) FAX 043-462-8820 (代)

URL <https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



1 Executive Message

佐倉病院開院30周年を迎えて
副院長／管理・業務改善担当
鈴木 啓悦

2 アピールしたい診療と研究：診療の質の要『病理』 病理診断科・病院病理部 教授・部長／蛭田啓之

3 昇任紹介：消化器内科 講師／山田 哲弘 糖尿病・内分泌・代謝内科 講師／山口 崇

4 教育連携・医療連携について：副院長／教育・検査研究担当／蛭田 啓之 院長補佐／教育・衛生担当／松岡 克善

5 医療連携・患者支援センター長就任のご挨拶：院長補佐／医療連携・患者支援センター長／大橋 靖

第19回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナーを開催して：院長補佐／医療連携・患者支援センター長／大橋 靖
医療連携セミナー 次回開催予告

Topics
News

Executive Message

佐倉病院開院30周年を迎えて



副院長／管理・業務改善担当

鈴木 啓悦

Hiroyoshi Suzuki

当院は、本年9月に開院30周年を迎えました。教職員の拡充、病床や診療科の増設、放射線治療棟の建築・ロボット支援手術などの新規診療技術導入といった、ソフト・ハード両面での診療体制の充実、さらに研究室や教育棟などの教育研究環境の整備を進めて参りました。現在は、地域

医療支援病院・がん診療連携協力病院・災害拠点病院などとして地域に貢献するとともに、多くの診療科で新専門医制度の基幹施設としての専門研修プログラムも設定されています。

私自身は、当院が増床された後の2010年4月に着任しました。当時から部署・診療科間の垣根の低い、非常に活気あふれる働きやすい環境でした。専門の泌尿器科に関しても、腹腔鏡・内視鏡手術さらにはロボット支援手術(ダヴィンチX®)といった患者さんの負担の少ない低侵襲手術の導入、放射線治療や薬物療法も組み合わせた集学的治療の促進、多くの治験での新規薬剤の開発、さらには多くの後期研修医(専攻医)の入局とマンパワーの増大に伴う救急疾患への対応など、学内外のご協力で、千葉県内でも有数の泌尿器科として活動できております。

2011年1月からは院長補佐として、医療連携・医療安全・病院機能評価など様々な部署を担当する機会を頂戴し、勉強させて頂いて参りました。そして本年3月より副院長を拝命し、現在は管理業務を中心に担当させて頂いております。これまでの経験を活かして、当院が急性期病院として、地域中核病院として、大学病院として、学内外の皆様のお役に立てるように、貢献して参りたいと考えております。

新型コロナ対策はまだしばらく必要ですが、その中でも通常の診療もしっかり継続していく事が地域中核病院の使命であると考えております。幸い当院は、多くの教職員の努力によって、クラスターが発生することなく対応できております。さらに2022年6月までには、吉田友英病院長がご尽力された病院機能の拡充(HCUや手術室の増室)が完成する予定で準備が進められています。これにより、手術待機期間の短縮や高度医療への対応強化などができる事と期待されます。

最後に、今後の病院の在り方として、社会との関わりとしてのCSV(Creating Shared Value: 共有価値の創造)を意識した病院運営が必要と考えております。CSVの結果として、社会(患者さんや家族、他医療機関、行政、業者さんなど)から頼りにされる佐倉病院であるように尽力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻賜りますようどうぞよろしくお願い致します。

アピールしたい

診療と研究

診療の質の要『病理』

病理診断科・病院病理部 教授・部長 ひるた のぶゆき 蛭田啓之

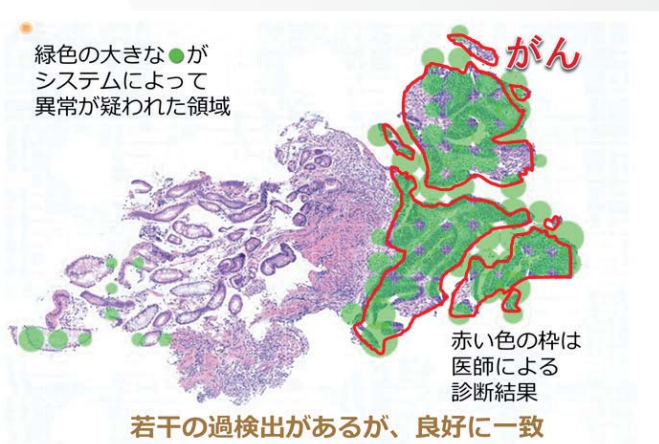


病院・診療の質向上には、患者さんに直接対応する診療各科はもちろんですが、それらを支える全ての院内部署が相互に関わっており、地域医療機関との連携も非常に重要な要素です。中でも「病理診断」はほぼ全ての診療科と関係し、最終診断となることが多く、治療

方針の決定や治療評価にも大きく関与しています。病理診断部門の充実度が医療の質向上の一翼を担っています。当院では病理診断科・病院病理部で2名の常勤（教授 蛭田、助教 杉浦善弥）、複数の非常勤病理専門医が外科病理診断全般に携わっており、地域の一部医療機関の病理も診ています。診断のレベルを保ち、向上を図るためには、病理標本を複数の専門医で診断し、年間の病理診断・解剖件数や精度管理が充分でなくてはなりません。診断の難解な症例については、その領域・臓器を専門とした院外の病理医にコンサルテーションすることもあります。さらには診療各科との十分な連携・理解を図るために、術前・後のカンファレンスや剖検症例の検討会も必要で、複数の診療科単位や全教職員を対象として定期的に行っています。コロナ禍が収束すれば、臨床病理症例検討会（CPC）に地域医療機関からのご参加も可能です。日本医療機能評価機構による病院機能評価では2回連続でS評価（最高評価）を受けており、当院病理部門の質・充実度が裏付けられています。

2名の常勤病理医の専門・研究領域はともに骨・軟部腫瘍の診断・解析と治療評価です。日本医療研究開発機構AMED/日本臨床腫瘍研究グループJCOGの「高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究（整形外科）」には病理診断と治療評価で研究班に加わっています。私はがん研究所病理部非常勤研究員としてがん研有明病院の骨・軟部腫瘍の診断にも携わり、日本病理学会コンサルテーション・システムや国立がん研究センターがん対策情報センター病理診断コンサルテーション推進室のコンサルタントとして、全国から診断困難症例を受

けています。また、産業技術総合研究所と病理デジタル画像・AIを用いた病理診断支援技術の共同研究を行っており、実際の病理標本のどこに異常・がんがあるかを抽出できるようになっています（図）。治療評価の分野にも広げる検討をしています。



胃生検組織標本のデジタル画像での解析・評価

なお、私は今年4月に病院病理学講座（佐倉）の教授に就任しました。1985/昭和60年に本学を卒業して、直ちに医学部第一病理学講座（現病院病理学講座）に入り、大森病院などで外科病理学・病理解剖を学びました。学位の目途を付けたのちに整形外科に移る予定でしたが、がん研病院整形外科で骨・軟部腫瘍の臨床と病理の研修させて頂いたこともあって、病理に骨を埋めることになりました。私の専門分野もその影響ですし、そして臨床に近い病理医を目指してきました。1991年の開院当初は非常勤でしたが、翌年6月に常勤となり、佐倉病院および地域の皆様とは30年を共に歩んできたこととなります。出身は兵庫県ですが、本籍が成田市にあり、半分は地元に戻ってきたように感じています。

病理は慢性的な人手不足で、全国で実働している病理専門医は2,000人余りです。常勤病理医不在のがん診療連携病院、県に専門医が10名余りという地域もあります。千葉県医療状況の中でも病理診断分野は深刻です。今後もこれまで以上に病理診断と診療の質向上を図り、良き臨床医・病理を理解してくれる医療人の育成と共に、病理医の確保と病理部門の充実に努めます。当院では表の診療科のみならず、裏方的存在で人員の少ない病理診断の領域においても、地域への貢献を心がけております。

昇任紹介



消化器内科 講師

山田 哲弘 やまだ あきひろ

“目線は低く、志は高く” から “考える医療” へ

“目線は低く、志は高く”という motto の先代鈴木康夫教授から松岡克善教授の体制になって早3年になります。患者さんにとって何が一番大事か、またそ

れは医療者として科学的な視点であるかを常に考えるという松岡教授の元で、若手医師が多く在籍し、“考える医療”を実践しております。

炎症性腸疾患を始め、消化管疾患、肝胆膵疾患、悪性腫瘍と幅広く診療体制を整え、地域の先生方から信頼いただける診療を目指して参ります。まだまだ未熟な面はございますが、一医療者として、チームとしていかに地域に貢献できるかを常に考え研鑽していきたいと存じます。皆様方には、変わらぬご指導ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



糖尿病・内分泌・代謝内科 講師

山口 崇 やまぐち たかし

この度、糖尿病・内分泌・代謝内科の講師の任を拝命しました。当科では、肥満症、糖尿病、脂質異常症、各種内分泌疾患を中心に診療を行っております。特に高度肥満症治療に関しては力をいれており、外科治療（減量・代謝改善手術）や薬物療法などを取り入れ、各科と綿密な連携をしながら患者さんをチームでサポートする体制を整備しています。糖尿

病についてもインスリンポンプ、24時間グルコースモニタリングなど、先端機器を用いた診療が可能で、その他すべての内分泌疾患に対して大学病院として先端医療の提供が可能です。今後も、より一層、地域の患者さん、医療機関の皆様へ貢献できるよう、グループとしても個人としても研鑽してまいります。お困りになっている患者さんがいらっしゃいましたら、是非お気軽にご紹介いただければ幸いです。今後も、どうぞ宜しくお願いいたします。

病についてもインスリンポンプ、24時間グルコースモニタリングなど、先端機器を用いた診療が可能で、その他すべての内分泌疾患に対して大学病院として先端医療の提供が可能です。今後も、より一層、地域の患者さん、医療機関の皆様へ貢献できるよう、グループとしても個人としても研鑽してまいります。お困りになっている患者さんがいらっしゃいましたら、是非お気軽にご紹介いただければ幸いです。今後も、どうぞ宜しくお願いいたします。

教育連携・医療連携について

副院長／教育・検査研究担当 蛭田 啓之

院長補佐／教育・衛生担当 松岡 克善

現在の医師臨床研修制度・前期研修および2017年から開始された専門医制度による後期研修では共に地域研修が必須です。学生実習を含め、地域医療機関の皆様には大変なご尽力を賜っており、感謝申し上げます。佐倉病院の研修医教育は、臨床研修に係る地域での教育と医療連携の関係も重視してきました。当院で開催する臨床研修指導医講習会では研修医との共同プログラムを設けています。その中に地域の先生方にもご参加頂ける「地域医療・教育連携談話会」のセッションを企画して、教育の連携が医療連携に関与・

発展するように心がけています。臨床研修指導医は厚労省の認定資格ですが、地域の先生方は当院の講習会で取得可能です。教育体制の充実・醸成には時間がかかりますが、院内外での教育の連携は医療連携・地域医療と密接に関わります。当院の臨床研修における理念・基本方針を紹介致します。地域研修・実習の際、ご参考にして頂けますと幸いです。

今後ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

「臨床研修の理念」について

東邦大学医療センターでは、『医療を通じて人類の福祉に貢献するため、豊かな知性と深い医の倫理観に基づいた全人的医療が行える、人間愛に満ちた「より良き臨床医」を目指します。』を臨床研修の基本理念に掲げ、下記の基本方針の元に、研修医・指導医相互に日夜診療・教育に邁進しております。

臨床研修の基本方針

「より良き臨床医」すなわちあふれる思いやりと確かな医学的知識と技術を通して社会に貢献できる医師となるために、医療機関である東邦大学医療センター3病院における臨床研修の基本方針を下記のごとく定める。

- I. 安全で質の高い医療を実践する。
- II. リサーチマインドを涵養する。
- III. 教育者として行動する。

医療連携・患者支援センター長就任のご挨拶



院長補佐／医療連携・患者支援センター長 おおはし やすし
大橋 靖

2021年7月1日前任の吉田友英先生が病院長に就任し、その後任として院長補佐ならびに医療連携・患者支援センター長に就任致しました。病院長を筆頭にスタッフ一丸となって地域医療を守れるよう連携の深度を高めてまいりたいと思います。当センターは2003年8月1日に設立され、医師・看護師・ソーシャルワーカー・事務職員・図書館司書の協働により、地域の医療機関や介護施設と当院を繋ぐ窓口として、患者さんの相談窓口として、入退院支援部門として、広報としての役目を果たし、地域医療支援病院としての当院の病院機能の最大化を目指します。

今、このコロナ禍において目まぐるしく変更を余儀なくされる病院機能、将来に向かって恒久的に求められる病院機能が激しく交錯しております。「命を守る」という命題を突き付けられ、生産活動と社会活動をこれ以上損なうことないように医療体制の再構築を求める社会の矛盾に向き合いながら、せめてこの地域の医療を崩壊させないように社会のニーズを敏感に捕らえながら行動していきたいと思っております。

今後も地域医療施設の先生、看護師さん、介護施設のスタッフの皆様のご意見・ご指導をいただき、充実した医療態勢作りをしていきたいと思っております。浅学の身ではありますが、どうぞ宜しくお願いします。

第19回 医療連携セミナー開催報告



循環器内科 院内講師
木下 利雄

2021年9月9日(木)に第19回 医療連携セミナーを開催し、院内外より55名のご参加をいただきました。緊急事態宣言が発令された中での開催でしたので、全面Web配信による開催としました。一般演題では3名の循環器内科医師が「ST上昇型心筋梗塞」院内講師 飯塚卓夫、「高度肥満症に合併した心不全」戸谷俊介、「慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) に対するカテーテル治療」助教 佐藤修司がそれぞれ講演しました。特別講演では「アブレーション治療成績と新診療分野“腫瘍循環器”」と題し、循環器内科 院内講師 木下利雄が講演しました。職種を超えた多くの方々にご参加いただき、有意義な会となりましたことに感謝申し上げます。

次回以降の医療連携セミナーも会場・Web どちらでもご参加いただけるように企画しております。皆様との連携のさらなる発展のためにより多くの方々に

ご参加いただき、地域との「顔の見える医療連携」、「対話する医療連携」を目指していきます。

今後ともご参加のほどよろしくお願い致します。

医療連携セミナー開催のお知らせ

第20回

東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナー

テーマ：整形外科



- 開催日時：2021年12月8日(水) 19:00～20:15
- 開催場所：東邦大学医療センター佐倉病院 7階講堂

※お申し込み等の詳細は、同封のご案内をご覧ください。